

御浜町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は柑橘生産が中心で、全耕地面積に占める水田の割合は約21%と少なく、中山間地域に位置することから、狭小で不整形な場所も多く、多雨地域であることなどから、主食用米以外の土地利用型作物が定着していない。また、農家の高齢化が進んでおり、経営規模も零細であることから、担い手が不足し、不作付地の拡大が進んでいる。

このため、主食用米の需要が減少する中で、新規需要米や収益性の高い他の作物の作付に転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

2 作物ごとの取組方針

町内の約300ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

（1）主食用米

地域内流通が主体であるが、売れる米作りを基本とし、前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、需要に応じた米の生産を行う。

（2）非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中で、飼料用米を主要な転作作物の一つとして位置づける。飼料用米の生産拡大にあたっては、地域内で実需者となる養鶏業の需要動向を勘案しつつ、需要に見合う作付けの拡大や多収品種の導入推進を図る。

また、水利の関係で多収品種の導入が難しい地域では、主食用耐倒伏性品種を用いた収量の向上および実肥による品質の向上に取り組む生産者を支援し、需要に見合う作付けの推進を図る。

（3）果樹、野菜、その他

地域特産の柑橘などに加え、地域内消費が主体である品目を幅広く地域振興作物とし、導入推進を図る。

（4）不作付地の解消

現行の不作付地（約37ha）について、今後5年間で約1割（3ha）を飼料用米や地域振興作物の作付により解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	164.8	165.0	165.2
飼料用米	10.5	10.6	11.0
米粉用米	0	0	0
新始業開拓用米	0	0	0
WCS用稲	0	0	0
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	0	0	0
大豆	0.4	0.4	0.4
飼料作物	0	0	0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	58.1	58.5	58.5
野菜	8.9	8.9	8.9
花き・花木	3.1	3.1	3.1
果樹	40.6	40.6	40.6
雑穀	0	0	0
その他	1.5	1.5	1.5

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	飼料用米	多収品種の拡大助成	栽培面積	(29年度) 987a	(32年度) 1,020a
			生産量	(29年度) 46,192kg	(32年度) 47,736kg
2	飼料用米	主食用品種の拡大助成	栽培面積	(29年度) 55a	(32年度) 75a
			単収	(29年度) 468kg/10a	(32年度) 474kg/10a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。